

泉区泉南一地区民生委員児童委員協議会

(平成 25 年 7 月 30 日掲載記事)

(1) 泉南一地区について

当地区は泉区の東南部に位置しており、丘陵地を開発した新興住宅団地が連なり、山形県境の山間部まで続く地域で、約 11,500 世帯が暮らしています。開発から 50 年余りが経過するなかで高齢化が進み、70 歳以上のひとり暮らし高齢者が約 640 名、65 歳以上の夫婦世帯が 1,400 世帯余り等の地域です。民生委員・児童委員は 34 名（うち主任児童委員 2 名）で活動しています。

東日本大震災により、土地が隆起したり地すべりを起こしたりで崩壊した建物も多くみられました。丘陵地を造成した住宅地のため、地盤が不安定な箇所が多々みられ、いまだに鉄板を打ち込んで地すべりを抑えるなど地盤の復旧工事が大々的に行なわれています。

震災直後は、泉区民児協が中心となってボランティアセンターを立ち上げ、約 1 か月間、地域内の要望に応じるべく、各家庭の後片付けなどに多くのボランティアの参加を得て取り組み、高齢者から喜ばれました。

他市町で津波被害にあわれた方のための仮設住宅は当地区にはありませんが、民間賃貸住宅に入居された方も多く、65 歳以上の方がいる世帯が 80 世帯ほどあり、担当委員が訪問して支援に努めています。

(2) 現在の民児協活動

当地区独自の「ひとり暮らし高齢者と民生委員との交流会」は今年で 22 回目となり、6 月に開催しました。70 歳以上のひとり暮らしの方を対象にしており、今年も 130 余名の参加申し込みがありました。

午前中の 2 時間、会の運営費で弁当、茶菓子等を準備して親しく交流しました。地域包括支援センター所長からの講話、地区内の幼稚園の園児による「すずめ踊り」の披露、参加者や民生委員からの出し物披露などが行なわれ、最後には全員で歌を歌いました。本年も好評を得たと感じています。

また、5 月の定例会では地域包括支援センターの所長に講師を依頼して研修を行ないました。今回のテーマは「認知症の方と家族を地域ぐるみで支えよう」でした。6 つのグループに分かれ、それぞれ「その時にあなたはどのような支援がほしいと思うか」について自分の考えを模造紙に貼り付けながら意見をまとめていき、最後にグループ毎に発表をしました。時間が足りなくなるほど白熱した意見交換が行なわれました。

